

# 拓水

題字は 泉漁連三浦会長

4月号

No. 163

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会  
 兵庫東水産改良普及協会 123  
 神戸市兵庫区新在家町 太 郎  
 発行人 三浦清 695  
 TEL 6685-683  
 編集 拓水編集委員会  
 発行日 毎月30日  
 一部10円

昭和32年10月18日 第3種郵便物認可

昭和四十五年度

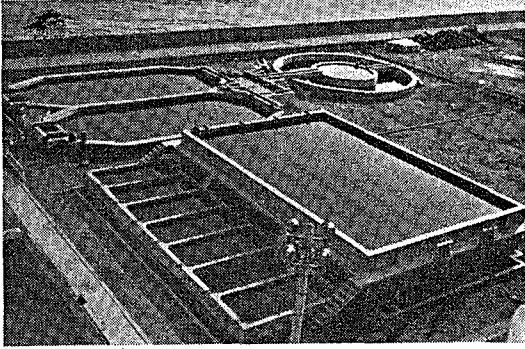
## 県水産関係予算について

昭和四十五年度の県水産関係当初予算が先般の県議会において決定されました。皆さんも新聞等でご承知のとおり、県全体の予算も年々大型化し、一般会計、特別会計を合わせると約二千二百億円となりました。戦後の経済成長期に向かいはじめた三十一年の県予算は総額で四十八億円でありましたが、貨幣価値の変動があるとしても、すいぶん県の財政規模は大きくなったのであります。金井知事は、かねてから県政の三本柱として「経済力の増進」と「教育文化の向上」をあげ、「県民福祉の増進」をかかげ、「よりよき兵庫県に住む」といってあわせて「県民が思うような郷土を築く」という思想を具現するための諸政策を進めておられますが、新年度特に注目されるのは「県民の健康と安全を確保する」と「新しい余暇利用の総合的展開をはかる」などの福祉行政に重点を置いている点といわれています。

とくに新年度の水産関係予算の概要は、別表のとおりであり、一般会計で約六億二千万円、この中に占める事業費は約四億四千万円で四十四年と較べて約一億二千万円増進しております。これは昭和三十八年から国の大型補助事業として継続実施してきた水産関係諸政策の経営近代化事業が前年度ですべて完了し、新年度の構造改善対策は漁場改良造成事業（魚礁、投石）だけになったため、別表にもありますが構造改善対策費前年度一億八千九百万円に対し新年度は僅か三千五百万円で約一億五千万円もの落ち込みが大きいといわれています。しかしこれ程の落ち込みの中で水産予算全体に占める一般財源（純県費）は逆に前年度に比し約四千万円増加していることは、水産に対する知事の並々ならぬ配慮と関心があることがうかがえる訳であります。

沖合の養殖漁場開発推進 (三百五十二万円)

内海におけるのり養殖 高価格により大いに発展し、とくに沖合におけるのり網は、その技術の改良普及と、いまより一歩、従来から泣かされて来た冬の漁期に對する漁具保全を重要な対策として登場し、今ではむしろ主幹漁業として、また将来にわたる発展の可能性のある漁業として、大きく主役の座を占めようとしております。しかし海岸線におけるのり養殖の漁場は限られたものであるし、また水質汚濁など公害による被害なども考えられると、どうも沖合に進出することが必要となってきます。



2月完成した水産種苗センター飼育池

カガイ百五十万個で早速生営業として淡路、阪神沖二、〇〇〇米（水深六七米）のところに網ヒビ百枚張り二セットを張立て、養殖技術をはじめ資材、労力、作業等の調査試験を実施しましたが、さらに詳しく調査するため四十五年度高め、夏の水温を下げるべくこれを継続実施します。

県立水産種苗センター設置 (二千八百万円)  
 栽培漁業を大規模に展開していくため、かねて待望されておりました水産種苗センターが去る一月明石の養殖試験場内に出来上りました。種苗生産能力はクマエヒ約六百万尾、アカアトロン等を設置してあります。アカアトロンは一種の熱交換機で冬の水温を高め、夏の水温を下げるべくこれを継続実施します。

### 昭和45年度当初予算概要 (単位千円)

区分	事項	昭和44年度当初予算額	昭和44年度現計予算額	昭和45年度当初予算額			
				金額	財源	内訳	一般財源
水産課予算 (一般会計)	人事費	154,066	169,352	176,509	13,075	0	163,434
	業務費	549,036	557,023	438,855	48,714	8,782	381,359
	計	703,102	726,375	615,364	61,789	8,782	544,793
水産課45年度主要予算	沖合のり養殖漁場開発推進費	5,210	5,210	3,516	0	0	3,516
	漁場再開開発推進費	1,500	1,500	548	0	0	548
	栽培漁業促進対策事業費	10,955	10,054	4,230	1,122	0	3,108
	漁業構造改善対策費	189,684	181,218	35,890	21,095	0	14,795
	水産改良普及費	3,817	3,156	4,147	990	0	3,157
	但馬無線七電電話局運営費	4,004	4,004	7,632	0	0	7,632
	漁業近代化資金 (繰出金)	23,715	20,384	26,760	0	0	26,760
	臨海工業地帯漁業振興特別対策費	30,300	30,300	38,600	0	0	38,600
	のりセンター設置助成費	0	0	32,000	0	0	32,000
	水産種苗センター建設費	25,181	25,181	28,095	0	0	28,095
	漁業協同組合併推進費	4,686	2,986	3,913	900	0	3,013
	漁業調整特別対策費	0	0	1,000	0	0	1,000
	漁船乗組員対策費	0	0	300	0	0	300
	漁場汚染防止対策推進費	500	500	7,300	3,400	0	3,900
	漁業取締船建造費	1,200	1,200	52,586	0	0	52,586
	漁業取締船船員詰所設置費	0	0	2,812	0	0	2,812
	市町営漁港建設事業助成費	82,905	81,562	106,982	17,541	0	89,441
	水産試験場試験研究調査費	18,748	20,226	21,043	1,995	5,440	13,608
	水産試験場整備費	6,803	6,803	7,630	0	0	7,630
	水産種苗生産事業費	0	0	5,041	0	0	5,041
その他事業費	139,828	162,739	48,830	1,671	3,342	43,817	
事業費計	549,036	557,023	438,855	48,714	8,782	381,359	

「アワビをはじめいろいろな魚の人工生産が可能になるもの」と期待されています。日本海栽培漁業促進対策(四十万円)  
 瀬戸内海では昭和三十八年から栽培漁業が実施され、一部でその効果が現れはじめておりますが、日本海ではまだ昨年がつけられていないので、昨年九月に青森県から山口県に至る日本海一府一県で「日本海栽培漁業事業化推進準備会」を結成して、これを推進することになりました。新年度はこの会に参加すると共に但馬沿岸の栽培漁業をこのように進めるべきか、体制や漁場等をいろいろ検討調査することになっています。

淡路のりセンター設置補助(三十万二千円)  
 「淡路のりセンター」を改称することにより目下実施方法を検討しております。構造改善対策事業(三千五百八十九万円)  
 昭和三十八年から実施してきた経営近代化事業とこの補正整備事業は四十四年度ですべて完了したため、四十五年度の構造改善事業は魚礁、投石だけとなりました。しかし四十六年度後半頃から第二次構造改善事業が開始されますので、それまでこの第二次構造改善事業は臨海工業地帯漁業振興特別対策事業の実施(三千八百六十万円)と併せて進めてまいります。

臨海工業地帯漁業振興特別対策事業の実施(三千八百六十万円)  
 臨海工業地帯漁業振興特別対策事業は、補助率に他は例のないほど高くなりますので、六月には竣工を五割から七割と特別の配慮がなされております。漁業取締船建造(五千二百万円)  
 おなじみの漁業取締船

# 3月の漁況と海況(内海側)

## ◎海況

2~3日大阪湾、4日播磨灘で実施した海洋観測結果によると大阪湾北東部で8℃内外、南西部で8℃~8.8℃、播磨灘では全域とも7.6℃~8.0℃を示し上下層水温差はほとんど見られない。一方12~13日の紀伊水道北部観測結果では表層水温9.0℃~10℃台、中層で10℃~12℃を示し、これらを平年に比較すると大阪湾で0.5℃~1.0℃の低目、播磨灘で平年並かやや低目、紀伊水道北部では東部において前月同様1.4℃~2.7℃低目の水温値であるが、その他の海域では0.5℃内外の低目に経過し昨年秋より続いた低水温も2月中旬に温暖な好天目が多かった為、現在では各海域ともほぼ平年並に回復しつつある。

## ◎漁況

(概況)上記漁場図×××印で示す海域では前月に引続き大半の漁業者がノリ養殖漁業に従事しているが、すでに盛期が過ぎやや低調とはなつたが根津、播磨地区では依然として出漁船が少なく漁船漁業は前月より向上しては来たものの南部域を除いては低調である。主として漁獲対象となっている魚種については明石海峡、鹿の瀬周辺ではイナゴ、テナガダコ、イカナゴ、カレイ類、アブラメ、大阪湾北部の沖ノ瀬、上ノ瀬周辺でイカナゴ親魚、アナゴ、カサゴ、友ヶ島水道及南北ではスズキ、アナゴ、カレイ類、イカナゴ新仔(洲本~佐野地先)沼島周辺で小ダイ、コノシロ、キス、鴨門南部でイカナゴ新仔(淡路寄)チヌ、カマス、アブラメ、カレイ類、北部ではアナゴ、イナゴ、マダコ、カレイ類となっている。また今月上旬にはイカナゴ新仔を対象とした淡路東浦沿岸での船曳網、福良地先での込網網などの操業が開始され、昨年を上回る初漁が続いている。しかし友ヶ島周辺の小型底曳網は入網魚が少なく不振である。

## ◎各地

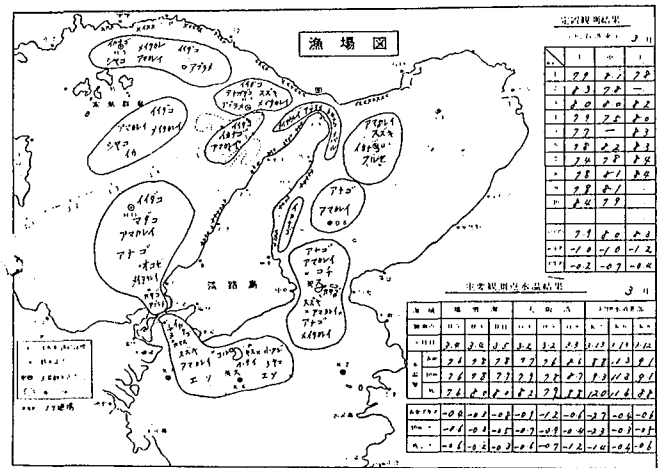
- 明石** 小型底曳網1日1隻メイタカレイ5キロ、キロ当たり1,500~2,000円、アマカレイ5キロ内外、キロ当たり1,000円、イナゴ60~70キロ、キロ当たり350円、アブラメ10キロ内外、キロ当たり800~1,000円、12隻操業、ブンチン酒1日1隻イナゴ30~40キロ、テナガダコ30キロ内外、キロ当たり200円、イシガレイ10キロ、キロ当たり800~1,100円10隻操業、アブラメ一本釣、1日1隻3~5キロ、キロ当たり1,200円30隻操業、スズキ一本釣5キロ内外、キロ当たり1,500円イカナゴパッチ網1日1隻900キロ内外、キロ当たり24円2隻試験操業。
- 岩屋** イカナゴパッチ網1日1隻300~400キロ、キロ当たり25円、15~20隻操業、アブラメ一本釣1日1隻13~15キロ、キロ当たり1,200~1,300円30隻操業、アナゴ延縄1日1隻100キロ内外、キロ当たり(大)1,500円(小)750円23隻、アマカレイ延縄1日1隻40キロ内外、キロ当たり(大)1,000円(小)500円3隻、カサゴ曳網1日1隻、20~30キロ、キロ当たり800円8隻。
- 由良** スズキ一本釣5キロ内外、キロ当たり1,800円日廻り2.5~3.0キロ40隻、カサゴ、メバル一本釣1日1隻10~20尾、1尾100円内外20隻、アナゴ延縄1日1隻100キロ内外、キロ当たり(大)1,700円(小)800円20隻。
- 沼島** 小型底曳網1日1隻キス10キロ、キロ当たり500円、エソ15~17キロ、キロ当たり90円、小アジ、コノシロ30キロ、キロ当たり120円、シャコ10~12キロ、キロ当たり40円30隻操業、小ダイ一本釣1日1隻4~5キロ、キロ当たり(大)2,700円(中)2,100円(小)1,400円65隻、コノシロ建網1日1隻60~70キロ、キロ当たり110円29隻。
- 福良** イカナゴ込網1日1統100キロ内外、キロ当たり130円28統操業、小型底曳網1日1隻メイタカレイ7~8キロ、キロ当たり1,200円、アブラメ5~6キロ、キロ当たり800円、アマカレイ4~5キロ、キロ当たり500円10隻、カレイ延縄1日1隻12~13キロ、キロ当たり550円17隻、チヌ建まわし1日1隻20~25キロ(好漁日)キロ当たり1,000円30隻、カマス一本釣1日1隻4キロ、キロ当たり380円スズキ2~3キロ、キロ当たり950円。
- 丸山** 小型底曳網1日1隻メイタカレイ6~7キロ、キロ当たり1,720円、カサゴ10キロ内外、キロ当たり350円、アブラメ、オコゼ7~8キロ、キロ当たり550円、マダコ、イナゴ10~15キロ、キロ当たり120円10隻操業、アナゴ延縄1日1隻40キロ内外、キロ当たり380円17隻操業。

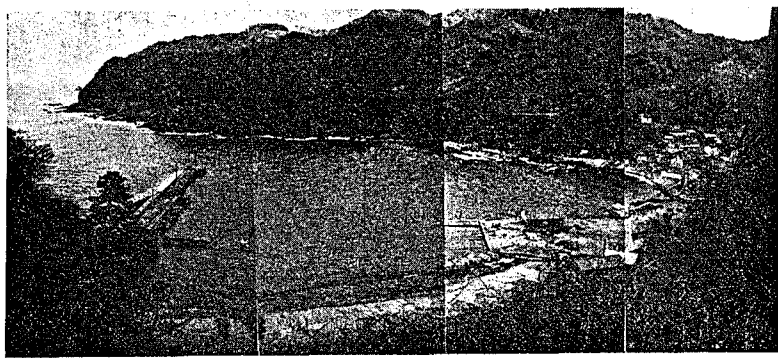
## ◎本月の特記事項

大阪湾中、南部でアナゴの好漁が続く中旬~下旬にかけて異常高値を示した(例年の3倍)これは本州側がノリ養殖のため出漁船が僅少で1隻当りは好漁であるが全体の漁獲量の減少から一時的なものである。  
鴨門南部海域で上旬よりチヌ漁が始まった。  
鹿の瀬海域でイナゴが例年になく豊漁で現在開持が50%を示している。  
イカナゴ込網が福良地区では上旬に、岩屋地区では下旬にそれぞれ網下をした。また洲本・沼島漁協の船曳網で21日より本格的な新仔の入網をみた。

## ◎今後の見込

イカナゴ新仔漁は1、2月号で述べたとおり稚仔の発生量が多く、また広範囲に分布しているので今後の水温上昇が順調にゆけば、稚魚の成長と相まって今月下旬~来月上旬の好潮時に豊漁が期待できるだろう。  
タイ、サワラの入り込時期については回避経路に当る紀伊水道北東部(和歌山県側)が例年より1.5℃~3.0℃低目に水温が経過しているため例年より一旬程度おくれる見込みである。(水試岩井)





(鑑漁港全景)

施設名	工種	数量
外かく	防波堤	85.0m
	突波護	21.0m
けい留	船揚場	72.0m
	船揚場	66.0m
輸送	道路	W=3.5m
		L=650.0m

一、大敷網の基地港  
鑑漁港は山陰海岸国立公園の代表的名産である鰹の袖のふところであり背後には山がせまり漁業、林業以外にこれと云った職業がなく、古来より大敷網の基地港として栄えたが、日本海の荒波にさらされて漁船の出漁準備及び水揚げ大へ入困難していたが昭和二十六年に鑑漁港建設に着手し今年完成をみたが、この間十八年有余、被覆水面積六〇〇haの漁港として今後も地元産業に大きく貢献するであろう。

二、事業概況

管理 香住町  
事業主体 香住町  
着手竣工年月日 昭和二十六年四月  
竣工 昭和四十四年三月  
事業費 一、一六、七八〇千円(換算額二八〇、〇〇〇)  
国庫補助 五八、三九〇  
県費補助 三五、〇三六  
道の事 三、三五六  
費 三、三五六

三、漁港改修事業に従事して

香住町建設課  
工務係長 山崎勉  
昭和二十五年漁港法が施行され、昭和二十六年八月二十一日第一種漁港に指定された鑑漁港は香住町西部に位置し、但馬海岸特有の山と海に迫られ、急峻な地形で山陰海岸国立公園の中でもっとも風光明媚な港であると思ふ。工事の思ひ出といつても毎年毎年がその都度走馬灯のように浮び

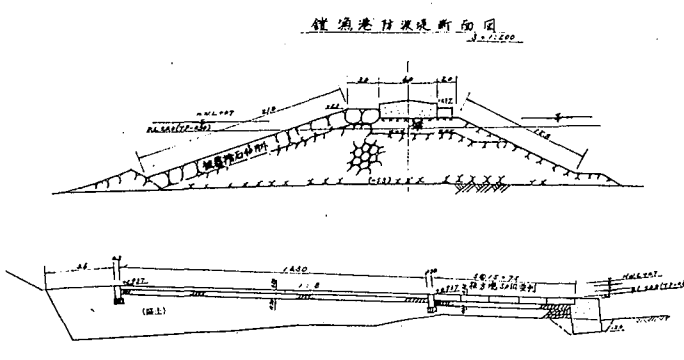
### 鑑漁港改修事業の竣工

(前号につづく)

無花果の木一本で道路工事が遅れた事、工地上の湧き出た水もあつた、が今と云れば何も彼もたのしい思い出である。特に昭和四十一年の道路工事の時、無花果の木を切る事について一人の老人が絶対反対と再三再四役場へやって来た、理由はその病入が生きた時その実を食べる事によって病が全快したので、その木は命の恩人だとの事であったが、とやかくなだめて切つて五年に成るがその老人も元氣な様子であるし、また今まで道路が自動車道として漁港まで接続されて部落の発展にも寄与している。

長い十八年間は、あるが、その間御指導を頂いた県水産課の諸先輩、また香住町漁業協同組合各部支所の諸兄に、この紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

鑑漁港のますますの発展を祈り筆をおく。



鑑漁港断面図

### 沖合スルメイカの分布と漁場

前回拓水一六二号で標識「もの」と考えた方がよいよう再捕の状況から沖合スルメイカの状態を知らせしたが、今回は例年4~5月間鑑漁港海域に出現するスルメイカの移動についてみてみたい。昭和四十三年五月末に鑑漁港方面で約五百尾の標識魚を放流したが再捕されたのは八尾でその移動状況は図1に示すとおりであった。

すなわち六~七月にかけて鑑漁港から百川西岸の沿岸において再捕されており、全般的に東行傾向を示している。しかし再捕された魚体はすべて再捕時には成熱体であり、このことから東行というよりはむしろ鑑漁港のために後戻りした

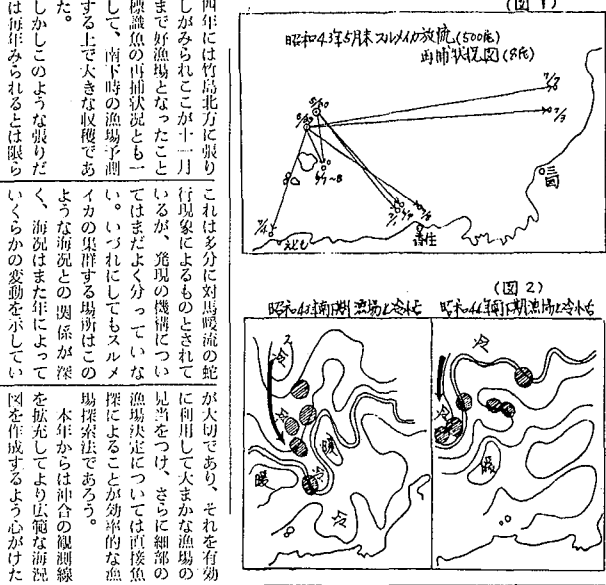
四~五月に鑑漁港北方に出現するスルメイカ群は成熟したもの、全く未成熟のものとの二つの群があり、沿岸で再捕されたものはこの中の成熟しているもので、この外に未熟の群は別に沖合を北方に移動回遊するものであろう。

現在日本海を回遊移動するスルメイカは春、夏、秋、冬、四季を通じて鑑漁港で再捕されており、秋日本海西部と朝鮮東岸で再捕されるもの、冬九州西海と東支那海で再捕されており、これがそれぞれ成長段階に応じて、北上(索餌成長)南下(交接産卵)の回遊サイクルをもっているものであるが、時期によってこれら二つの群が混合する場所もあり生物調査と並行して移動の実態が考えられなければならない。全般的に従来の標識魚は釣りの対象になるやや大きくなったので、成育期に当りてきた際の幼体についてはまだ見解が不足している。今後幼体イカを対象に組織的な放流調査が必要であらう。

しかし各系群別の移動経路はまだ判然としないが、北に角産卵場から北方に移動し、南下(八月月中旬以後)、南下(極前線以北の冷水域(沿海冷水域))と連なりそこから舌状に南方に張

布と移動を考えると、いり出す強い冷水域の先端部まで移動する傾向がある。すなわち釣りの対象となる成体イカの分布は七月月中旬頃までは夏にかけては暖流域の北側に分布し、秋、冬にかけては分布域は急進的に南方海域に収縮する。こうした大まかな現象をめぐり、成体イカの集合する、いわゆる漁場を海況とからしめて検証してき

上(前号)の漁場は、海面(むしろ深い所まで)暖かい(むしろ深い)先端部付と海況は比較的よく対応している。南下(八月月中旬以後)、南下(極前線以北の冷水域(沿海冷水域))と連なり、四、十三年には鑑漁港北方に張りだしていたが、四



いつも漁場に一番のり

●主機用 4~1000馬力  
●補機用 8~3000馬力

●3J E形/30馬力

ディーゼル

### 養魚の調餌と造粒は コウベヒラガのミートチッパーで

養魚用ミートチッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チッパーで給餌することもできます。

(脚一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチッパーとプレート、ナイフの専門工場  
株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8  
TEL 代表神戸(078)62-1527

